




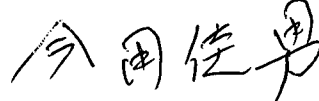



竹原市収受	
竹	第 号
- 7. 4. 23	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				






令和7年4月23日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  


視察・調査場	全国市町村国際文化研究所 (オンライン)
期 日	令和7年4月21日 ~ 令和7年4月22日
経 費	2000円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査的目	令和7年度第1回市町村長等・議会議員特別セミナー (オンライン)
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<ul style="list-style-type: none"> ・偽・誤情報問題 ~その現状と求められる対策~ with フェイク 2.0時代をどう生きるか 政治家の SNS 活用 ・持続可能な地方行財政のあり方 地方への人の流れの創出・拡大 地域経済の好循環による付加価値の創造 自治体DXの推進 (デジタル人材確保) ・おにぎりから世界へ、次世代へ ~地域資源の広げ方~ 枯れ木に花咲くに驚くより、生木に花咲くに驚け 「既知の未知化」 ・地域の歴史・文化資源を活かしたまちづくり ~しあわせ実感都市瀬戸内市の取組~ 稼ぐ自治体 行政の大きな目的の一つは正当性を作ること 一般財源 (市独自の財源) を使うのは最終手段 ふるさと納税、財産収入などの税外収入は貴重
効果・成果等	<p>講演の内容に興味がありオンラインで受講した。</p> <p>「偽・誤情報問題」では、身近な声を政治に反映するためのツールとして SNS が非常に有効との説明があり、過剰な意識をせず適切、効果的に活用しようと思う。</p> <p>「持続可能な地方行財政のあり方の講演」では、人口減少に悲観することなく、人口は減少することを前提に、DXを推進するなど生産性を上げる施策を考えるべきだということが理解できた。</p> <p>瀬戸内市武久市長の講演では「太陽のまちプロジェクト」「国宝「山鳥毛」里帰りプロジェクト」「食のしあわせプロジェクト」の具体的な事例の説明が詳しくあり、事業に反対する人への説明が必要であるなど参考すべきことが多かった。</p>

竹原市収受	
竹	第
号	
-7.4.25	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和7年4月25日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場	東広島市役所
期 日	令和7年4月24日 ~ 令和7年4月24日
経 費	0円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	指定管理者モニタリング・評価
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング制度はいつ頃から採用されたか。 平成21年度から導入している。 ・導入の際に課題となったことがあるか。 適切な制度運用のため、モニタリングの必要性は十分認識されていたものの、実際の実務に必要な仕組みについては、一から構築する必要があったため①業務フロー②市、指定管理者の役割分担③具体の様式の設定などが、課題となった。 ・モニタリングの評価の実績内容のデータは毎月収集されているか。 ①協定書・仕様書・提案書等に従って、期日を定め、業務報告書等の提出を求めるなどして、収集、確認している。②業務報告書は主として、月報と年報を用いて、施設の管理運営が適切に行われているかを確認している。③利用者アンケート結果、苦情内容、災害・事故などについては、随時発生状況の報告を求めるとともに、必要に応じて職員が施設に出向き実地調査を行っている。④必要に応じ、監査報告書、貸借対照表等から指定管理者の財務状況を確認し、安定性・継続性についても確認している。
効果・成果等	<p>竹原市も指定管理者制度が導入されているが、モニタリング・評価が実施されていないため視察した。担当課より、現在の状況について詳しく説明していただいた。</p> <p>指定管理者制度は平成18年に本格導入され、モニタリング・評価については平成21年度から導入されたが、導入時には多くの課題があり、法律の専門機関に助言を求めるなどして、現在の仕組みを作られたとのことであった。その必要性については、モニタリングが適切に実施されない場合、重大な事故や事件の発生、指定管理者が実施する事業やその組織自体の破綻等のリスクの予兆を見過ごし、施設の運営管理を継続できなくなる可能性があるとのこと。今後他市の事例も研究して取り組みたい。</p>

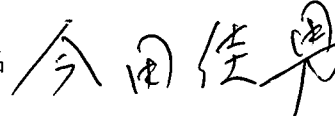

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹	第
号	
-7.4.30	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和7年4月30日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

視察・調査場 所	三次市役所
期 日	令和7年4月28日 ~ 令和7年4月28日
経 費	0円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査的 目	校務支援システムの運用状況
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在導入されているシステムはどのように選定されたか。 他市の状況を聞き取りしながら、県内で最も多く採用されているシステムを選択した。 ・導入の際に、それまで各学校で使用していたシステムとの違いで教員の負担になるなどの問題はありませんでしたか。 最初に管理職向けに、その後全体の研修を令和5年度は5回、令和6年度は6回、希望者があれば個別に行った。 養護教諭については医師会等の関係もあるので、詳しく聞き取りを行った。 ・それぞれの学校での運用状況が異なることもあるかと思うが、教育委員会と各学校との連携をどのようにされていますか。 成績一覧表等が統一化され、学校のデータを教育委員会でも直接見ることができるなど連携ができています。 導入1年後にメリットなどの調査を実施した。
効果・成果等	<p>竹原市では令和7年度予算で、教員の働き方改革を進めるため、校務支援システムの導入が決定され、令和8年4月から本格運用がされる。令和7年度はシステムの選定など、導入にむけての研究、準備研究がされることになる。</p> <p>三次市は令和6年度から校務支援システムを導入しており、導入時の課題、導入後の状況が参考になると考えて視察した。</p> <p>導入時に現場の負担にならないように研修を繰り返し、導入後も現場からの聞き取りを続けて、常に改善されていることがよくわかった。</p>

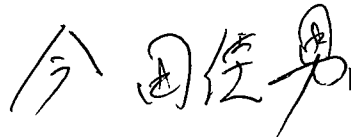

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹	第
号	
-7.5.14	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				






令和7年5月14日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  


視察・調査場 所	江田島市立大古小学校
期 日	令和7年5月13日 ~ 令和7年5月13日
経 費	0円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査的 目 的	校務支援システムの運用状況
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・導入までに課題となったことがありますか。 導入事業者の決定までの事務の負担が大きかった。 ・現在導入されているシステムはどのように選定されたか。 導入にあたり検討委員会を設置し、4社のシステムについてデモンストレーションや学校での操作体験会を行った。 ・導入の際に、それまで各学校で使用していたシステムとの違いで教員の負担になるなどの問題はありませんでしたか。 全校を対象とした計2回の研修会の実施により、学校現場でスムーズに利用できるようにサポートを行った。 ・教育委員会と各学校との連携をどのようにされていますか。 管理者アカウントにより各学校の利用状況を定期的に確認している。基本的な操作方法については、学校から直接、導入事業者をサポートしてもらっている。 ・DXについて教員のスキルに違いがあることで課題がありませんか。 大きな課題と考えている。不得手な教員を支援し、積極的な活用を促すため、市費によりICT支援員を2名配置している。
効果・成果等	<p>竹原市では校務支援システムの導入が決定され、令和8年4月から本格運用がされる。令和7年度はシステムの選定など、導入にむけての研究、準備がされることになる。先日令和6年度から導入している三次市を視察したが、平成29年度から導入し、採用しているシステムが三次市とは異なる江田島市の状況を視察した。</p> <p>リーディングDXスクールとなっている大古小学校は昨年ICT機器の活用状況を視察し、児童と創るタブレットのルールづくり、児童のタブレット技術が飛躍的に向上した、など先進的な取組、成果の説明を受けた。今回は教育委員会の担当者から、採用するシステムについて今後予想される広島県教育委員会の動向の説明もあり参考になった。</p>

竹原市収受	
竹	号
-7.5.19	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				

令和7年5月19日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場	博多国際展示場&カンファレンスセンター
期 日	令和7年5月15日 ~ 令和7年5月15日
経 費	19340円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査的目	第3回 地域×Tech 九州
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>産業振興 「官民連携DXで地域の潜在力を引き出す ～産学官金で行う地場企業の生産性向上への取り組み～」</p> <p>GIGAスクール 「鹿児島市が取り組む学習者中心の学び ～第2期GIGAスクール推進に向けた展望～」</p> <p>学校ICT 「学校教育のICT化・DXを推進する取り組み ～宮崎県都城市リーディングDXスクール指定校の事例紹介～」</p> <p>自治体DX 「佐賀市版DXで日本一便利なまちへ ～みんなで創る「佐賀市公式スーパーアプリ」～」</p>
効果・成果等	<p>竹原市で校務支援システムの導入が決定され、令和8年4月から本格運用されることとなり、三次市、江田島市の状況を視察した。今回のセミナーには、鹿児島市のGIGAスクール、都城市のICT・DXの事例紹介があるので参加した。どちらも先進的な取組であったが、多忙な現場の教員の理解、研修をどのように進めるかが大きな課題になると感じた。</p> <p>自治体向けの生成AIの事例の紹介もあり、今後の議員活動に取り入れていきたい。また今後取り上げていきたいと考えている2地域居住についても、以前サテライトオフィス誘致で視察した美波町の関係者から情報収集ができた。有意義な情報を活用していきたい。</p>


※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹	第 号
-7.5.23	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和7年5月23日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査 上 所	垂井町役場 ワイワイプラザ垂井
期 日	令和7年5月22日 ~ 令和7年5月22日
経 費	22130円
参加者氏名	今田 佳男
	旧庁舎跡地にぎわい創出施設整備事業
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・DB(設計・建設)とO(運営)を別発注とした理由は? 完成後の運営について、日常的に町民や地域団体が主体的に関わり、多様な活動や交流がうまれる場とするため、地域に根ざした団体による柔軟で持続的な管理運営が求められたため、地域の実情やニーズをよく知るNPO法人を別発注で指定管理者として選定した。 ・ライフサイクルコストを低減するために配慮されたことがありますか。 複数の公共施設の機能を一つの建物に集約することで、建物の数を減らし、維持管理費や光熱費などのランニングコストを抑えています。 ・調査特別委員会での議論になったことがありましたか。 整備手法について 旧庁舎や中央公民館の解体について 施設の部屋構成や配置について 建物のバリアフリー対応について
効果・成果 等	<p>旧庁舎移転後の跡地の整備事業であり、今後の公共施設ゾーン再整備の参考になると考えて視察した。敷地面積などは竹原市の計画の約2分の1であり、以前視察した廿日市市の事例と似通った状況であるが、DB(設計・建設)とO(運営)が別発注であることの理由を確認したかった。地元で以前から総合型地域クラブを運営する特定非営利活動法人「Let'sたらい」がその経験を活かして施設の指定管理者としてすべてを運営されているとのことであり法人の担当者からも説明を受けたが、人材の確保に苦労されているとのことであった。</p> <p>施設はコンパクトに設計されており、幼稚園児から高齢者まで多世代が活用されていた。</p>


※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹	第 号
-7.6.-6	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				

令和7年6月6日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場	美郷町役場
期 日	令和7年6月4日 ~ 令和7年6月4日
経 費	0円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	移住促進
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<ul style="list-style-type: none"> ・みさとと。サステナブルハウスについて 町外在住者で中学生以下の子供が居る世帯を対象にしており、12世帯を準備しているが現在は8世帯が入居している ・田舎暮らしコーディネーターについて 移住後のフォローをするために重要であり、今年度会計年度任用職員として1人採用(定員は2人) ・空き家の活用状況について 民間賃貸住宅建設改修支援事業補助金(一戸あたり最大1000万円)「しまね定住推進住宅整備支援事業補助金」を活用して今年度から ・中学生を対象にした公営塾の利用状況について 町内に高校が無い。1か月あたり1000円の教材費負担で2教室開講しており、約50%の生徒が家庭学習の場として利用している ・地域商工業等支援事業費補助金を活用した事例について 令和6年度実績2件 補助額2671千円 令和5年度実績4件 補助額4000千円
効果・成果等	<p>今年度から「活気あふれる町づくり課」を新設し、移住者用住宅、定住ポイント制度など積極的に移住支援をしておられるので視察した。</p> <p>住まいに関する補助制度では、今年度から、国、県の補助金を活用して「民間賃貸住宅建設改修支援事業補助金」を新設するなど、積極的に空き家の活用を推進している。今後は、二地域居住や町独自のビジネスプランコンテストで関係ができた東京経済大学のインターン生の受け入れを検討している。観光協会が運営している施設にはサテライトオフィスが10社入居している。またカヌーで関係ができたインドネシアバリ島との友好文化交流をすすめており参考にすることは多いので、今後も情報交換をしていきたい。</p>

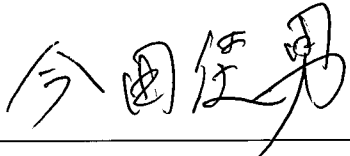

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹第	号
-7.7.-4	
受理期限	月 日
領記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				






令和7年7月4日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

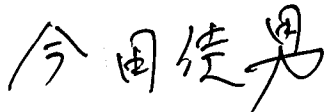

視察・調査場	東近江市役所
期日	令和7年7月1日 ~ 令和7年7月2日
経費	10040円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	中心市街地活性化について
内容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>①中心市街地商業等空店舗再生支援事業はどのような事業ですか？ 補助限度額300万円で2分の1を補助 平成29年度から昨年度までに11件 年間1~2件</p> <p>②まちなかキャンパス整備事業では大学側と連携していますか？ 市民公開講座を開催 いきいき生活プロジェクト (フレイル対策)</p> <p>③中心市街地活性化基本計画の取組で、パブリックな視点を持った民間事業者が主体となって事業を展開する、又は行政と連携するなどの実績がありますか。 商工会議所などと連携して八日市まちづくり公社を設立して、官民連携型まちづくりを推進している。</p>
効果・成果等	<p>人口、面積の規模はかなり異なるが、以前受講した議員研修「民間活用と修景政策を活かした公共施設とまちづくり」で取り上げられた事業であり、現在2期計画(令和4年~令和9年)が進捗しており、今後の中心市街地計画の参考になると考えて視察をした。 一般社団法人八日市まちづくり公社が、官民一体のまちづくりを推進されているが、自主財源を確保するための収益事業には苦勞されているとのことであり、竹原市の、(株)いいね竹原やDMOにも共通の課題があるのではないかと思われるので、今後情報収集していきたい。</p>

竹原市収受		
竹	第	号
- 7. 7. 11		
処理期限	月	日
分類記号	保存年限	

議長	副議長	局長	係長	局員
				

令和7年7月 // 日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  

視察・調査場	笠岡市役所
期 日	令和7年7月10日
経 費	2680円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	市立小・中学校の学校規模適正化
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	市立小・中学校の学校規模適正化についての質問事項 問) スクールバスの運行はされていますか？ 通学距離が長く、路線バスで対応しきれない小学校についてバス会社に委託して2台運行している。 問) 地域学で取り扱われる社会科副読本「わたしたちの笠岡」はどなたが執筆されましたか？ 小学生の副読本であり、市内小学校の教員が執筆した。教科書の改訂時に修正をしている。 問) 教職員の指導力の向上のため研修会等の機会充実を図ります、とされていますが現状は？ 毎年約100万円弱の金額を予算付けして教育研修所を設置し、その中の運営委員会により、ブロックごとに計画的に研修を実施している。 問) 小中一貫教育推進計画の計画期間は、令和元年度から令和10年度までの10ヵ年で適宜見直しするとされており、令和7年4月に改定されていますが、市民、議会への説明はどのようにされたのでしょうか？ 見直しの必要性を①現状と必要性②基本方針③適正配置計画の順に、地域の説明会を昨年度は26回実施して、丁寧に説明して理解を得た。
効果・成果等	笠岡市では令和元年度に小・中学校の学校規模適正化計画の修正が行われているが、その後児童生徒数が予想を上回って減少しており、昨年度計画を見直している。竹原市も児童生徒数が急激に減少しており、適正配置計画の見直しが必要と考えるので、参考とするために視察した。 笠岡市は合併をすることなく、市庁舎が老朽化、また市内の高校の活性化が課題となっているなど、竹原市と共通の課題を抱えており、有意義な情報交換ができた。今回の見直しを、市民に対する説明会で、順序だて、丁寧に説明してこられたことがよくわかった。 学級崩壊ゼロなどの成果が期待できるとして情報提供があった「小学校チーム担任制」は今後研究していきたい。


※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹	第 号
- 7. 7. 22	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				

令和7年7月22日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場 所	津山圏域雇用労働センター 仕事・移住支援室
期 日	令和7年7月16日
経 費	9680円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査的目 的	移住者支援制度について
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>仕事・移住支援室のミッション</p> <p>①移住・定住策の充実による津山市へ人の還流促進 (帰ってこられる、移住できるまちへの取組) 具体的な移住支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料職業紹介センター ・IJUターン就職活動交通費助成 ・お試し住宅(トライアルステイ) ・空き家活用定住促進事業補助金 ・移住サポートセンターによる移住相談、サポート ・移住体験ツアー ・IJUターンCafé(移住者交流会) <p>②「18歳の壁」の克服に向けた高校・高専・大学との連携による活性化と学生の定着促進</p> <p>③出会いの場の創出、結婚の希望をかなえる取組</p>
効果・成果等	<p>積極的に移住・定住の取組を進めておられるので視察した。</p> <p>移住者、地元津山市出身の2名のIJUコンシェルジュを採用して、ワンストップで対応し、移住相談会、体験ツアーを実施するとともに、移住後も移住者の交流会を開催して支援している。</p> <p>「18歳の壁」を克服、若者の定住を促進するため、津山市単独ではなく、隣接する5町と津山広域事務組合を設立して、県北の企業情報、就活イベント情報を発して、地域内就職応援事業を展開している。</p> <p>岡山県北部の中心として都市機能は充実しているが、人口減少が急速に進んでおり、竹原市と共通の課題も多く、今後も情報交換をしていきたい。</p>

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。


竹原市収受	
竹	第
号	
-7.7.30	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				

資料様式第3号

令和7年7月30日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 


視察・調査場	全国市町村国際文化研究所
期 日	令和7年7月28日 ~ 令和7年7月29日
経 費	27150円
参加者氏名	今田佳男
視察・調査的目	令和7年度第2回 市町村長等・議会議員特別セミナー
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>①真の意味での持続可能な都市を目指して 神戸市長 久元 喜造</p> <p>②地域の魅力を引き出す文学の力 文芸評論家 三宅 香帆 小説家 宮島 未奈</p> <p>③明日を生きるために 人文知を地域に生かす 近世国学から学ぶ 國學院大學教授 松本 久史</p> <p>④みんながやりたい場所をつくる廃校利活用施設 「いいかねPalette」の運営について ㈱BOOK 樋口 聖典</p>
効果・成果等	<p>竹原市ではすでに未活用の廃校等があり、小中学校の適正配置により今後も増加する。今回の講義の中に廃校利活用があったので受講した。全国的に廃校は増加しており活用も増えているが、利活用を始めたのちにバックトゥ廃校の事例も多数あり、事例紹介があった「いいかねPalette」もクラウドファンディングには多数の支援者がいるが、現在の経営は赤字とのことである。</p> <p>私は市内で廃校利活用がされている忠海東小学校の集学校を何度も訪問して課題、ニーズの聞き取りをしているが、今後も他市町の事例を視察するなどして、廃校の利活用について、研究、質問、提案をしていきたい。</p>

竹原市収受		
竹	第	号
- 7. 8. 12		
処理期限	月	日
分類記号	保存年限	

議長	副議長	局長	係長	局員
高重				

令和7年8月12日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場	所 株廣瀬行政研究所 京都JAビル
期日	令和7年8月4日 ~ 令和7年8月4日
経費	43130円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査的目	観光需要の急速な回復に伴う市町村における「新たな稼ぐ観光政策」 ～観光政策の落とし穴と、鋭い議会質問とは?～
内容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者は本物を求めている これからの観光は、そこでしか感じられない、今だけ・私だけの旅 ・①数を追うだけで無く、儲かる観光の仕組みを作る事が大事 ②行政が中心でリードする観光は限界 ③民力を主体にした、稼ぐ観光の仕組みづくりが求められている ・地域観光を成功させるキーワード ①町の歴史と現状を知り、本質的な問題をつかむ ②町にとってのお客さんの変化を知ること ③来訪者は何が体験できるのか? 鋭く問われる時代 ④人々を集める重要=街そのものの魅力である事を認識する ⑤いまだけ、ここだけ、あなただけ=ここでしかないものを作る ⑥これからの地方観光客数よりも観光消費額を重視すべき
効果・成果等	<p>観光客数だけを追うのではなく、観光消費額を高めることは竹原市の課題である。「稼ぐ観光」をテーマにしたセミナーであり、またDMOの成功事例の情報を聞くことができることを期待して参加した。</p> <p>仙台市、長崎市、伊賀市、宇多津町など大小9の市町が参加していた。それぞれの地域の課題をワークショップ形式で議論する時間も設けられ、竹原市のDMOは市民にわかりづらいので丁寧な説明が必要であること、将来は認定DMOとして自走することを予定している所以他市町の情報収集が重要であることがわかった。</p> <p>特に伊賀市は、急速に人口減少が進んで人材の確保に苦しんでいることが竹原市と共通の課題であり、今後視察を検討したい。</p>

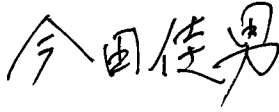

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原市収受	
竹	第
号	
- 7.10. - 8	
処理期限	月 日
記録番号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				






令和7年10月8日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名  


視察・調査場	所	笠岡市役所
期	日	令和7年10月7日
経	費	2680円
参加者氏名		今田 佳男
視察・調査的	目	地域おこし協力隊 地域おこし協力隊インターン
内	容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>①ミッション型／提案型の違いと、各型における課題設定・成果定義は。</p> <p>ミッション型：行政や地域が抱える課題を募集前に「ミッション」として設定し、隊員が取り組む。</p> <p>提案型（フリーミッション型）：隊員自らが提案する課題を「ミッション」として設定し、取り組む。インターン期間中は、関係者や地域等への理解を深めてもらい、実際の本隊での活動や生活の具体的なイメージが持てるような活動内容を組み立てている。</p> <p>②メンター配置、週次面談やチャット等の運用。</p> <p>メンター：令和5年度から協力隊OBにインターンについて、活動支援等をコーディネーターに業務委託。活動等の相談については、関係者、コーディネーターと連携しながら随時対応。</p> <p>⑤過去のインターン案件一覧</p> <p>延べ人数：16人（平均年齢23歳 市外の現役学生が多い）</p>
効果・成果等		<p>地域おこし協力隊にインターン制度を取り入れるなど独自の取組を進めておられるので、情報収集のために視察をした。提案型では、障害者グループホームに向けての活動、婚活サポート事業、不動産業の経験を活かした空き家の利活用など多様な活動内容が提案されており、笠岡市外の方から見たときの地域の課題の捉え方がさまざまであることが分かった。</p> <p>地域おこし協力隊の期間終了後笠岡市内で起業された方が、コーディネーターとなってインターンに応募された方の活動のサポートをすることや、毎月公開ミーティングで活動報告をされていることは、今後竹原市でも取り入れるべきだと考える。</p>

竹原市収受	
竹	第 号
- 7.11 17	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				






令和7年11月17日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田 佳男 


視察・調査場	岡山県美咲町役場
期 日	令和7年11月12日
経 費	11680円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	「賢く縮む」まちの取組
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>公共施設(建物)の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築は、機能(サービス)の集約と複合化 ・新築は、簡素・縮小・柔軟・生涯費用の縮減 ・旧施設(建物)は町(直営・委託・指定管理)で運営しない ・旧施設(建物)は処分(売却・解体)する ・解体後の土地は、売却する <p>新築及び大規模改修工事の発注方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計施工一括(DB)による公募型プロポーザル方式 ・メリット:コスト縮減、工期短縮、施工事業者の技術力が活きる
効果・成果等	<p>以前日経新聞に「賢く縮む」まち、「住民主導で自治再構築」「ハコモノ60施設解体売却」「未来へ投資学校を核に」として取り上げられていたので視察をした。町長にも加わっていただき丁寧に説明していただいた。</p> <p>旧施設の基本的な考え方では、解体費用が土地評価額を上回る事例も検討して、積極的に民間企業へ売却を進めておられることは今後参考にしたい。</p> <p>今回の視察目的以外にも、小規模多機能自治の促進、学校マネジメント、黄福タクシーなどは参考になることが多く改めて視察を検討したい。</p>

竹原市収受	
竹	第
号	
8.1.16	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				

令和7年1月16日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場	宇部市役所
期 日	令和8年1月15日
経 費	12750円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	都市構造再編集中支援事業について
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<p>宇部市役所周辺地区(第2期)都市構造再編集中支援事業</p> <p>事業概要</p> <p>市役所本庁舎建て替え及びにぎわい交流拠点施設の建設と合わせ、様々な活動や交流が出来る広場やウォークアブルな歩行空間の整備により、憩いと交流の場と居心地が良く歩きたくなるまちなみの形成を図ることでにぎわいの創出を図る</p> <p>面積 50ha</p> <p>交付期間 令和7年度～令和11年</p> <p>立地適正化計画公表時期 令和元年7月</p> <p>全体事業費 8402百万円</p> <p>国費率 50%</p>
効果・成果等	<p>市役所本庁舎を建替したのち、市役所の隣接地にある閉店した大型百貨店跡地に、子育て支援拠点とくつろぎ・交流機能を核とする公共施設と、飲食機能などを備えた民間施設からなる新たな複合施設をDBO方式により整備する事業であり、竹原市が進めてきた公共施設ゾーン再整備事業と非常に類似しており参考とするために視察した。</p> <p>令和2年8月に基本計画案を公表したが、市議会で否決となったため、ゼロベースで見直しをしている。令和4年3月の計画策定まで、サウンディング調査、利活用の方向性、素案の説明など、市民、議会への丁寧な説明をして、利活用計画の熟度を上げる努力されたことは参考にするべきと考える。</p>

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。


竹原市収受	
竹	号
- 8.3.19	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

議長	副議長	局長	係長	局員
				

令和7年3月17日




議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 今田佳男 

視察・調査場	岡山県美咲町旭学園
期 日	令和8年3月17日
経 費	2000円
参加者氏名	今田 佳男
視察・調査目的	義務教育学校の取組
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	<ul style="list-style-type: none"> 旭学園を「学校を核とした地域づくりのシンボル」に！ 学校教育目標 「夢を持ち、未来をひらく旭っこ」の育成・ 保・学園一貫教育 小・中課程教員の乗り入れ授業（教科担任） 4-3-2年制 前期・中期・後期ステージ 郷土学習 地域課題解決に向けた探求的な学び方 英語教育 コミュニケーション コミュニティスクール 地域との一体的推進 <p>地域学校協同活動推進員のコーディネートによる地域と学校が同じ方針で児童生徒を育てる</p>
効果・成果等	<p>美咲町は昨年「賢く縮む」まちの取組で視察した。その際の説明資料で義務教育学校の特色のある取組の説明を受けたので今回視察した。</p> <p>美咲町も人口減少が急速に進行しており、今後複式学級となる学年がでてくるなど課題は竹原市と共通している。</p> <p>4-3-2年制を採用した一貫教育で、小学校課程と中学校課程教員が乗り入れ授業をすることによって、児童生徒の学びが深まる効果がある。英語教育では、英語を使って表現する意欲を育むため、オーストラリアの学校とのオンライン交流、高知県土佐山学舎への交流事業などの取組を進めており、竹原市でも参考にできるので、今後研究、提案していきたい。</p>

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。